

2017年11月10日

# 2017年度常磐大学幼稚園 学校関係者評価報告書

常磐大学幼稚園学校関係者評価委員会

評価分野	評価項目	5	4	3	2	1
教育課程・指導	教育課程の編成・実施状況	5	4	③	2	1
	学校行事の管理・実施体制の状況	5	④	3	2	1
	年間指導計画や週案などの作成状況	5	④	3	2	1
	幼小の連携・接続に関する工夫の状況	5	4	3	②	1
	教員間の協力的な指導の状況	5	④	3	2	1
	幼稚園教育要領の内容に沿った指導の状況	5	4	③	2	1
	分野別評価	◎評価委員の意見 ・発達の異なる個別対応の要望があった。 ・幼小連携に関する工夫の状況について「小学校学習参観」等の対策への要望があった。				
保健管理	家庭や地域の保健・医療機関との連携状況	5	④	3	2	1
	日常の健康観察や疾病予防の取組	5	④	3	2	1
	健康診断の実施状況	5	④	3	2	1
	分野別評価	◎評価委員の意見 ・現状の評価は高い。				
安全管理	事故等の緊急事態発生時の対応状況	⑤	4	3	2	1
	学校安全計画や防災計画等の作成・実施状況	⑤	4	3	2	1
	危機管理マニュアル等の作成・活用状況	5	④	3	2	1
	分野別評価	◎評価委員の意見 ・真剣に取り組まれていることを評価する。 ・「危機管理」として保護者との連携を含めたマニュアルがほしい。				
特別支援教育	特別支援教育のための園内支援体制の整備状況	⑤	4	3	2	1
	家庭との連携状況	5	④	3	2	1
	分野別評価	◎評価委員の意見 ・大学の心理臨床の教員との定期面談はありがたい。 ・園内支援体制で実施状況(年長3名)を知りたい。				
組織運営	管理職者のリーダーシップ、教職員からの信頼状況	5	4	③	2	1
	学校が管理する資金の予算・決算の公開状況	5	4	③	2	1
	教職員の勤務時間管理状況	5	④	3	2	1
	各種文書や個人情報等の管理状況	5	④	3	2	1
	分野別評価	◎評価委員の意見 ・個人情報等の管理にあたり、守秘義務の徹底をお願いしたい。				
研修(資質向上の取組)	園内研修・園外研修の実施・参加状況	5	4	3	②	1
	非常勤講師等の資質確保と向上のための取組	5	4	③	2	1
	分野別評価	◎評価委員の意見 ・来年度に予定されている公開保育(自然を生かした遊び)および子どもの発達にどのように生かされるか?の研修準備状況の報告がほしかった。 ・月1回の研修への参加(特に非常勤)をどのようにするのか?の説明がほしかった。				
教育目標・学校評価	教育目標が設定されているか	⑤	4	3	2	1
	学校の状況を踏まえた中短期の目標設定状況	5	4	③	2	1
	自己評価が年1回以上実施されているか	5	④	3	2	1
	自己評価の結果の翌年度への活用状況	5	4	③	2	1
	学校関係者評価が年1回以上実施されているか	⑤	4	3	2	1
	学校関係者評価の結果の翌年度への活用状況	5	4	③	2	1
	保護者の意見や要望の把握状況	5	4	③	2	1
	教育相談体制が整備されているか	5	4	③	2	1

評点:5は非常に優れている、4は優れている、3は普通、2は劣っている、1は非常に劣っている

評価Aは優、Bは良、Cは可、Dは改善を要する

		分野別評価				
		A	(B)	C	D	
情報提供	学校に関する様々な情報の提供状況(HP、Facebook等)	5	(4)	3	2	1
	学校評価・自己評価結果の公表状況	5	(4)	3	2	1
	園便りや学級便りなどの発行状況	5	(4)	3	2	1
	分野別評価 ◎評価委員の意見 ・本園の情報提供(HP・Facebook)は好評	A	(B)	C	D	
保護者・地域住民との連携	学校運営への保護者の参画・協力状況	5	4	(3)	2	1
	地域住民の意見や要望の把握・対応の状況	5	4	(3)	2	1
	地域の人材など外部人材の活用状況	5	4	(3)	2	1
	分野別評価	A	(B)	C	D	
子育て支援	子育て支援活動の実施状況	5	(4)	3	2	1
	他の関係機関との連携状況	5	(4)	3	2	1
	分野別評価	(A)	B	C	D	
預かり保育	預かり保育の実施状況	(5)	4	3	2	1
	教職員による受け入れ体制の状況	(5)	4	3	2	1
	分野別評価	(A)	B	C	D	
教育環境整備	施設・設備の活用状況	5	(4)	3	2	1
	施設・設備の安全管理のための取組状況	5	(4)	3	2	1
	遊具・用具・図書等の整備状況	5	(4)	3	2	1
	分野別評価	A	(B)	C	D	
総合評価		A	(B)	C	D	
コメント1. (評価委員長)						
2018年度からの「新しい教育要領」に対する新教育課程の作成や、7月下旬に開催される「全国幼児教育研究大会」への準備等で大変な1年になります。然し、これは「認定こども園常磐大学幼稚園」の真価をアピール出来るチャンスでもあります。						
園長を中心とした教職員一同の実力をお示し下さい。期待しています。						

コメント2(保護者代表評価委員)

- (1) 学校運営への保護者の参画、協力は認定こども園になってから減ったと思う。そのかわり、フェイスブックの活用をはじめたので、保育の様子がよくみえるようになった。学校評価、自己評価結果の公表がわかりにくい。
- (2) 保育内容や環境などは、とてもしっかりしているので、安心して子どもたちをお願いすることができます。
- (3) 自己評価や学校関係者評価の結果が分からず、翌年にどう活用されているのか分からない。
- (4) 園でのさまざまな経験が小学校生活にも生かされている。例えば、わくわくチャレンジや空手など。また体を動かすことが大切にされていたため遊びがダイナミックになるためのボール投などは、幼小連携として効果があり、評価したい。

常磐大学幼稚園学校関係者評価委員

委員長 竹中 治利(常磐短期大学名誉教授、常磐大学幼稚園元園長)

A委員 常磐大学幼稚園 在園児保護者

B委員 常磐大学幼稚園 在園児保護者

C委員 常磐大学幼稚園 卒園児保護者

2017年度 認定こども園 常磐大学幼稚園 自己評価 総合評価表

○自己評価

各設問に対してA～Dの段階で評価

A…目標が十分に達成されている。

B…目標がほぼ達成されている。

C…重要な点で成果が上がっていない。

D…全体として成果が上がっていない。

【評価項目】

1. 質の高い学校教育としての保育の向上

①教育理念

○園の教育方針

・園の教育方針を理解している	A
----------------	---

②保育の計画性

○教育課程

・園の教育課程を理解している	B
----------------	---

・教育課程をもとに指導計画をたてている	B
---------------------	---

○指導計画

・指導計画は教育要領・教育課程・幼児の実態などをもとに考えて作成している	B
--------------------------------------	---

・指導計画は常に見直しを行っている	B
-------------------	---

○月案・週日案

・教育課程をもとに幼児の実態に合わせて作成している	B
---------------------------	---

・自分なりに標記の仕方を工夫し課題をもった内容になるよう努力している	B
------------------------------------	---

③保育の実践

○5領域

・健康・人間関係・環境・言葉・表現についてそれぞれ工夫して保育を実践している	B
----------------------------------------	---

○子どもとのかかわり

・子どもの心身の状況や変化を常に把握している	A
------------------------	---

・子どもの話をよく聞き、常に子どもの気持ちを受け止められるよう気をつけている	B
----------------------------------------	---

・子どもの発達や性格に応じたかかわり方を実践している	B
----------------------------	---

・子どもの人権を尊重して保育にあたっている	A
-----------------------	---

○教師間の連携

・子どもについて常に教師同士で話し合い、クラス、学年を越えて情報交換する機会がある	A
-------------------------------------------	---

・教師間で保育技術や保育方法の意見交換をする機会がある	A
-----------------------------	---

・独断で行動せず、事前相談・事後報告をしている	A
-------------------------	---

○保育の記録・反省

・一人ひとりの子どもをよく観察するよう心がけている	A
---------------------------	---

・クラスの運営や子どもの生活または育ちを毎日記録している	B
------------------------------	---

・反省を踏まえ、次の日の保育に生かす工夫をしている	B
---------------------------	---

④学級運営

○保育室の管理

・保育室内の整理整頓を心がけ、掃除がいきとどいている	A
----------------------------	---

・子どもの動線を考え、安全に配慮した環境になっている	A
----------------------------	---

## ○事務処理

・出席簿、週日案等は毎日正確に記入している	B
・配布物は決められた期日に配布している	A
・連絡ノートはすぐに目を通し適切に対応している	A
・保護者からの提出物、現金など注意深く管理している	A

## 2. 特色ある教育活動としての大学院・大学・短大との連携

・短大・四大生のゼミ活動に対する積極的な参加協力をしている	B
・わくわくチャレンジ(理科・体育・絵画・音楽・空手)や、ハローイングリッシュなどのプログラムを保育活動として有効的に取り入れている	A
・実習活動、インターンシップにおいて、受入れ体制の充実と指導力の強化に努めている	B

## 3. 給食と食育活動

旬の食材を使った給食や手作り弁当を和やかに食べられるような雰囲気づくりをする	B
食に対し興味や関心を持ち、感謝をしながら無駄にせずいただく気持ちを養う	A

## 4. 地域の小学校の子ども・教職員の交流

・小学校の教育内容について理解しようとしている	B
・修了した子どもの情報を得るように努力している	C
・地域の小学校の行事や公開授業に積極的に参加し交流をもつ機会を得ようと努力している	C

## 5. 資質向上のための研修の充実

### ①研修・研究への意欲

・研修会に進んで参加する	B
・保育関連の専門書や専門雑誌を読んでいる	B
・研修会で習得したことを実際の保育に生かしている	B
・教材研究をしている	B

## 6. 総合的な保育の支援(保護者・地域ニーズの考慮)

### ①保育等に関わる情報発信の強化

・子どもの変化や出来事、日常の様子を出来る限り保護者に伝えている	B
・保護者からの依頼や質問、相談などには適切に対応している	B
・家庭との連携が不可欠であることを認識し、保護者との情報交換に努めている	B
・日々の保育活動を、ホームページやFacebookなどを活用し発信している	B

## ②協力と支援

・保護者からの意見、要望については安易に受けたり、断ったりせず、上司に報告・相談をしている	A
・保護者への支援が可能な部分については、上司・他の教職員の合意のもとで行っている	A
・保護者の協力が必要な場合は、上司と協力のあり方を協議の上で保護者に依頼している	A

## ③良識とモラル

・個々の子どもや保護者、家族の情報は口外していない	A
・保護者との接し方は平等になるよう心がけている	A
・保護者に対して丁寧語で話している	A
・保護者の言葉づかいにこだわらず話を誠実に聞いている	A
・すべての保護者に対し、親しみを込めた挨拶や会話を心がけている	A

## ④クレームの対処

・クレームに対して謙虚に話を聞いている	A
・保護者の意を理解し、その上で園の意向も理解してもらい、保護者の納得を得ることができる	B
・必ず、上司に相談・報告している	A

## 7. 安全面への対応・衛生管理

### ①園内の安全対策

・園内に危険な物、壊れた物はないか常に観察し、発見次第報告している	A
・園が行っている安全対策について理解している	B
・消火器、非常ブザーなどの位置を把握し、使い方を理解している	B

### ②飲食物や薬品の管理

・飲食物の保管には十分配慮している	A
・救急薬品、清掃用薬品の保管、取り扱いには十分配慮している	A

### ③事故やけがに対するの対応

・事故やけががあった時は迅速かつ適切に責任をもって対応し記録をしている	A
・事故やけがの状況や原因を把握し上司、保護者に報告している	A

### ④降園途中の安全対策

・通園バス添乗における安全対策・注意事項を理解し配慮している	A
・降園時の子どもを確実に保護者に手渡し、その後の見回りも積極的にやっている	A

## 8. 子育て支援

・地域における保護者の実情や要望による子育て支援ニーズを把握している	B
・カウンセリングの基礎を理解し、保護者に対して相談対応などを行っている	B

## 9. 預かり保育

・保護者の実情や要望を取り入れ、預かり保育事業の実施に協力している	B
・預かり保育事業を行うにあたり、体制整備に関して職員間で議論している	B

## 10. 期待される望ましい保育者像

### ①幼稚園教諭としての能力

・幼稚園教諭として専門知識や技能を身につけて実践に努めている	B
・子どもの性格や個性を把握するよう努め、コミュニケーションがとれる	A
・仕事の手順を考え、優先順位を見極め能率良く行っている	B
・リーダーシップを発揮し、魅力ある学年・クラス運営ができる	B

### ②良識とマナー

・保育時間外でも保育者としての誇りと自覚を持った言動を心がけている	A
-----------------------------------	---

・その場に適した言動がとれるよう努めている	B
・服装・髪型・身だしなみなど、清潔感があるよう心がけている	A

### ③職務の遂行

・職員として誠実に職務に専念している	A
・職務上、知り得たプライバシーに関する情報などの守秘事項は厳守している	A
・重要書類や個人情報にかかわる資料等は確実に保管し、園外に持ち出さない	A
・教材・教具の管理、点検に気を配っている	B

### ④組織の一員としてのあり方

・教職員全員でひとつのチームであることを意識している	A
・自分の意見と異なる結果になっても決定したことには快く協力実行している	A
・当番や担当などの仕事の分担は、積極的に責任をもって実行している	A

### 【2017年度を終えて】

・本園も認定こども園として、周知が進んだ3年目。年中組にも教育補助教員が2学期から各クラスに入り、少し余裕がもてる体制となった。学年付きの教員が増える情報交換が十分とれず共通理解や意思疎通が難しくなる部分が出てくるが、それぞれの学年主任が作成したノートを回覧したり、保育の合間に短時間での意見交換などをおこなったりし、チームワークを重視しながらの保育にあたった。新卒者の教員も二人加わったので、実践を踏まえながら、要所要所での研修や教頭による保育指導等を行い、クラスによって対応の偏りが無いよう努めた。

・2016年度同様、地域の小学校との交流会を実施することができた。しかし、地域の一般の方々とかかわりがもてていないため、2018年度は老人ホーム訪問などの活動予定を考えたり、また、祖父母の方々にもボランティアを登録していただいたりし、園に興味をもってもらい、来園していただく機会をもつことから始めていきたい。

・2018年度の公開保育に向けて、テーマを設定し同時期に園内研修会を実施した。それぞれの学年が、自然環境に合わせた遊びのねらいを立て、子どもたちの発達や興味に合わせた活動を実践した。実施することによっていくつかの課題も見えたが、まずは子どもたち一人ひとりの成長に繋がるような活動を計画的に進めていきたい。

・1号認定児における預かり保育について、より柔軟な受け入れ体制を構築していく。  
・教育要領の改訂に伴い、本園の保育実践を踏まえ、独自の教育課程の作成をする。